

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 税の使い道

福島市立福島第四中学校 3年 法井 美海

みなさんは幸福度ランキングを知っていますか。各国の国民に「どれくらい幸せと感じているか」を評価してらった調査に加えてGDP、平均寿命、寛大さ、社会的支援、自由度といった要素を元に幸福度を計ったものです。日本は五十八位で、一位は二年連続でフィンランドでした。なぜフィンランドの幸福度が高いのでしょうか。その理由は税金の使い道にありました。

フィンランドの消費税は二十四パーセントと世界的にみてもとても高く、大変なのではないかと思いますが、フィンランド国民の約八割は満足しているのです。なぜなら、フィンランドでは病気になったときの治療費や大学までの学費、給食費が無料で、育児休暇制度や失業保険が充実しているからです。フィンランドでは税金がはっきりと目に見える形で使われている安心とともに、国民の精神の安定も守られているため、幸せを感じられるのでしょう。

日本では十月から消費税が十パーセントに引き上げられますが、税金の用途が不透明であったり、政治家たちの都合が良いように使われてしまっているイメージしかなく、それが国民の不満につながっているのではないかと思います。

私は社会の授業で税金の使い道について勉強しました。水道や道路の整備、学校、教科書、警察や消防も税金がなくては成り立たないことがわかりました。また、東日本大震災でも多くの税金が復旧費に使われていました。

しかし、日本の財政は赤字で少子高齢化社会となっている日本では社会保障がさらに難しくなります。二〇〇〇年には六十五歳以上の人、一人を三・六人で支えていましたが、二〇五〇年には一・三人の人で支えることになると予想されています。

また、最近では『年金二〇〇〇万円問題』も話題になりました。

このような問題に直面している日本だからこそ国民一人一人が税について関心を

持たなければなりません。幸福感を上げるためには、国民がしっかりと税金の使い道を知ること、国も消費税を引き上げるのなら使い道をもっと透明感し、国民の納得を得られる使い方をするべきだと思います。

しかし忘れてはいけないのは私たちの暮らしが税金によって支えられているということです。どんなに不満を抱いていても税金が無かったら生活は成り立ちません。税によって受けている様々な恩恵に感謝して生きていきたいと思います。

私はこれから税についての正しい知識を身につけ、日本の未来を考えながら、社会に貢献するために税を納めることのできる、責任と義務を果たせるような大人になりたいです。